

## 会議録

会議の名称	加東市民病院経営健全化基本計画評価委員会
開催日時	令和3年5月12日(水) 書面協議開始 令和3年5月20日(木) 書面協議終了
開催場所	書面協議として開催
<p>議長の名 委員長 浅野 良一</p> <p>出席及び欠席委員の名</p> <p>出席委員：西山 敬吾、三木 秀文、高橋 優、小西 勝之、松浦 千秋、藤井 和美</p> <p>欠席委員：なし</p>	
説明のため出席した者の職氏名	
<p>出席した事務局職員の名及びその職名</p> <p>病院事業管理者 金岡 保、事務局長 堀田 敬文、看護部長 長田 瑞穂、 ケアホームかとう事務長 柳 博之、経営企画課長 大末 美佳、 総務課長 河村 雅人、医事課長 谷口 一史、経営企画課係長 三村 彰彦</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>1 協議事項(加東市民病院経営健全化基本計画進捗状況)の説明(事務局) (質疑応答)</p> <p>委員長 昨年度から続く新型コロナウイルス感染症対策で、加東市民病院の皆さんが献身的なご努力をなされていることに敬意と感謝の意を表します。</p> <p>令和元年度は、全体的に堅調で、ここ数年の病院の構造改革により、ひところの危機的状況から脱し、経営状況健全化の道を歩んでいるように見えていましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、入院、外来ともに患者数が減少し、大幅な減収となってしまいました。</p> <p>しかし、市民のための医療機関・介護施設として、平日夜9時までと休日の内科の救急対応を始め、民間の医療機関や介護施設との連携は評価に値します。</p> <p>経営健全化の視点では、苦しい状況が続きますが、市民に当たり前の医療や介護を提供する「市民の安全・安心の拠点」として、この困難な状況を打開する工夫を継続していただければと思います。</p> <p>委員 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により入院患者、外来患者が減少し、病院経営が非常に厳しい中、院長を始め、医師、看護師、他の関係者の皆さんの創意工夫と努力により、昨年に続き診療単価の向上を達成されていることは大変素晴らしいことだと思います。また、昨年5月ごろの状況を思い出すと、外来患者の減少から見て、経常利益で対前年比約2倍の損益となっていますが、よくこれですんでいると思います。ご苦労さまでした。</p> <p>私の知り合いから、ありがとうと言っておいてほしいとの言葉をいただき、加東市民病院が地域住民の皆さんに信頼されていることにうれしく感じました。これからもよろしく願いいたします。</p> <p>今まで言われてきました医師の確保目標の中に、神経内科医が不足していますが、どのような状況でしょうか。また、診療科別の収支状況で、入院及び外来の神経</p>	

内科の目標値が入っておりますが、医師不在で目標値はないと思いますが、どのようにお考えですか。同様に、泌尿器科は逆で、医師1名で目標が0人はどうですか。

事務局 神経内科は、全国的にも従事する医師が少ない診療科の1つです。計画では、高齢者の複合疾患の診療を行うため、1名の医師の採用を見込んでいました。そのため、医師数の目標値は1名となっていました。現在のところ採用に至っておらず、目標値の表記はありますが、実績はない状況となっています。

泌尿器科については、救急医療の拡充のため、増員を図る診療科の対象とはしていましたが、医師の採用は見込んでいませんでした。しかし、平成30年4月に医師を採用したため、目標値はありませんが、実績が表記されています。

神経内科を始めとする医師の確保が必要と考えられる診療科では、市民に寄り添い、地域医療に貢献していただける医師の募集を続けてまいります。

委員 決算見込み額が記載されているのを見ると、目標値に比べ予想以上にがんばったと思われます。

しかし、コロナ禍の状況で、患者の皆さまの健康を守りながらの診療はできていなかったと思います。また、患者数の減少は致し方ないとは言え、もうひと踏ん張りだと感じます。病床稼働率が非常に低くなっており、手術患者の減少も一因かもしれません。それにより、給与比率が非常に高くなっています。医業収益の増加が急務です。

診療単価は入院、外来ともに上昇しているため、患者の減少をどう止めるかが重要です。特に、救急患者数が昨年度に比べ大きく減少しています。原因究明の必要性があるのではないのでしょうか。

介護老人保健施設についても、入所利用率が非常に低いです。入所時に病院での健康観察や入所者の一時入院等があると思いますが、何か対策を講じてください。

訪問看護については訪問看護利用者の絶対数が少なくなっています。増加する方策がないか検討の余地があると思います。

事務局 病院事業部全体で、患者数及び利用者数が大きく減少していますが、このような状況下でも収益の確保に努めてまいります。開業医からの紹介患者は継続して必ず受け入れ、また、当院がかかりつけの患者から要望があれば、訪問診療や看取りを含めた在宅医療を行うことで、コロナ禍に対応したいと考えています。

また、ケアホームかとうに対する施設理解の取り組みとして、地域住民に対し、6月から毎週木曜日に介護相談を受けることを計画しています。相談を受ける中で、必要に応じ入所につなげていきたいと考えています。

訪問看護については、医療依存度の高い利用者の在宅療養が増えている中、新規依頼にも即日に対応できる体制を整えています。病院と訪問看護が連携することで、継続的な医療を行いつつ、ご自宅で看取りたいというニーズにも対応していきます。このような実績の積み重ねにより、地域のケアマネージャーからの信頼を得ることで、新規利用者の相談や依頼に対応していきます。

委員 令和2年度の決算もほぼ確定する時期となりましたが、当該経営健全化期計画の目標値に達していない項目が多数あります。これらの多くは、新型コロナウイルス感染症に起因するものと認識しておりますが、病院事業、介護老人保健施設事業、訪問看護事業ごとに目標達成割合が大きな差異がある項目について、新型コロナウイルス感染症がなければ達成可能であったか否かの検証を今一度していただけたらと思います。

病院事業では、医師数14名の目標値を維持しているが、整形外科で目標値と比べ1名減となっていることが、患者数や手術件数の減少につながり、医業収益の減少の大きな原因となっていないのでしょうか。救急医療においては、消化器内科で1名増となり、内科疾患の対応に当たっていただいております。市民病院として地域医療に貢献

できていると評価できます。検査部門、レントゲン部門、リハビリ部門、人間ドック部門においては、コロナ禍の影響が続いているにもかかわらず、健闘されていると思います。

介護老人保健施設事業では、コロナ禍の影響もありますが、長期・短期入所利用率、通所利用率が近年低下していますので、再度、地域住民やケアマネージャー等とのネットワークの構築が必要ではないでしょうか。

訪問看護事業においても、給与比率が高く、収支のバランスが悪いですが、登録者を増やし、利用人数・利用回数の増加へつなげ、効率的に訪問看護が行えるよう努力して、地域での在宅看護・医療を担っていただいていることを評価したいと思います。

事務局 病院事業では、整形外科の常勤医が確保できるよう、当院の情報を医師紹介業者等へ発信し、積極的に求人を行っています。加東市の地域医療に長く従事していただけたような医師が見つからず採用に至っておりません。手術件数を回復させるために、医師の確保が必須であると捉えていますので、引き続き常勤医の確保を目指していきます。

また、ケアホームかとうでは、安全に当施設を利用していただくために、新型コロナウイルス感染症の施設クラスターが発生しないよう、慎重を期して入所調整を行っています。各事業所のケアマネージャーとも十分に連携を図り、6月から行う介護相談では、市民からの要望に応じることで利用者の確保につなげていきたいと考えています。

委員 金岡院長を始め、病院全体で医療と介護の連携を促進していただいております。大変感謝しています。介護サービスの利用者は、住み慣れた加東市で暮らしていきたいと考えており、加東市民病院がレスパイト入院を積極的に受け入れていただいていることに、とても心強く感じています。

また、新型コロナウイルス感染症により、状況によってはデイサービスなどの介護サービスの提供が困難になる事例が発生しています。介護サービスを提供するスタッフを含めて、安全に継続した介護サービスの提供ができるよう、医療の側面からも新型コロナウイルス感染症対応にご相談に乗っていただければ助かります。

委員 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出されている中、医療機能が維持できていることに、病院関係者の皆さまに感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症により、入院、外来ともに患者数が減少し、それに伴い昨年度に比べ減収となっています。しかし、市民の受診ができるよう配慮され、救急外来でも気持ちよく診察してもらえており、市民のための病院であることを実践されている姿を見て、加東市民病院の存在はとても大切であると思います。

医師の確保はできていると思いますが、神経内科医師の確保はどうでしょうか。今後、コロナワクチンの接種が進み、新型コロナウイルス感染症の収束により、経営が回復することを期待します。

事務局 委員の皆さまのご認識どおり、市民の医療需要に応えるために、神経内科や整形外科などの医師の確保が必要となっています。医師の採用に当たっては、加東市の未来の医療と一緒に支えていただくことが、大切だと考えています。当院の要望に見合う医師は多くありませんが、この地域の医療状況を粘り強く発信することで、常勤医の確保に努めてまいります。

## 2 閉会

令和3年 6月 9日

委員長

浅野良一